

「更につながり大切に」

栗ヶ沢小学校校長

おやまだ あきふみ

小山田 明文

実は、私は栗ヶ沢小学校に教務主任として15年前から6年間おりました。したがって、この小金原地区は非常に懐かしく、身近に感じております。柏市から転任した当時、感じましたのは、「この地区にはたくさんの行事があるし、毎朝、地域の方々による交通安全指導が行なわれているし、つながりが極めて強い地域だな。」ということです。その思いは9年経っても、変わっていません。

先日、35回目の小金原大運動会が本年度は栗中で開催されました。18団体が集まった盛大な市民運動会に改めて感服しました。今、行事を開催することが難しい中、「地区がまとまっているな。」と、つくづく感じます。今まで推進してこられた地域の方々、それを陰になり支えてきた小金原おやじの会や他団体の方々のご苦勞に脱帽の思いです。

つながりを考える時、「福を得ても、分け与えようとしない人間は、飢えた犬が餌を奪い合う醜い姿に似ている。」という幸田露伴の「分福」を思い出します。今日の生活を見渡すと「自分さえよければ」という卑しい心を感じる出来事が多いのではないのでしょうか。

ところで、露伴を生んだ晩秋の岩手の田舎では、どの家の柿の木にも数個の実が残っています。昔、食べ物が簡単に手に入らない旅人に、この地方の人たちは「お腹が空いたらどうぞこの柿をお食べください。」と、旅の無事を祈ったそうです。この小金原の地区も「分福の心」を持ち、更につながり大切にしていくことを願っています。